

## 卒業生・修了生総代答辞

本日は、お忙しい中、大野英男総長をはじめとして、諸先生方ならびにご来賓の皆様のご臨席を賜り、このような盛大な式典を挙げていただきましたことを、卒業生・修了生一同を代表しまして、心より御礼申し上げます。学位記授与式を迎えた今、これまでの研究生活を振り返ってみますと、あっという間の二年間であったと感じております。

さて私は、東北大学病院で臨床検査技師として働きながら、脳波や心電図をもちいて、てんかんをお持ちの患者様の自律神経機能の異常に関する研究を行ってまいりました。てんかんは100人に一人がもつ common disease で、正しい診断と治療によって普通の生活を取りもどせる方が多い一方で、繰り返す発作に悩む方や、稀ながら生命にかかわる事態に陥る方もいらっしゃいます。私は大学院の2年間の研究で、このような方を救う方法に直結する成果を得ることができ、大変に有意義であったと感じております。

大学院に入学した当初は、仕事と研究を両立することができるか不安に思うこともありましたが、研究で得た知識を臨床という仕事の場面へフィードバックさせながら理解を深めることができ、また臨床で生じた疑問を研究室で解決するという好循環を生み出すことができました。その意味で、東北大学は私にとって、社会人としても学生としても最高の学びの場であったと実感しております。

私が在籍する医学系研究科てんかん学分野では、医師や臨床検査技師のほか、心理士やソーシャルワーカーなどのさまざまな職種が一緒になって、よりよい医療を提供できるよう日々努力しております。研究チームは医学系研究科の中だけにとどまらず、教育学研究科、工学系研究科、歯学研究科など多岐にわたっております。このような多数の部局の連携や、多くの職種の連携こそが、リーディング・ユニバーシティとしての東北大学の素晴らしさであると確信しております。今後も研究と臨床、さらには教育という三位一体の関係をつねに意識しながら、日々研鑽を重ねていきたいと考えております。

本日、私たちは学位記を授与され、新たな門出に立つことができました。これから別々の道を歩むこととなりますが、東北大学で学んだかけがえのない日々を糧に、多様な分野で貢献できるよう精進してまいります。

最後に、今日までご指導・ご支援頂いた諸先生方、職員の皆様、応援して下さった同僚の皆様、そしていつも近くで支えてくれた家族に、心より御礼申し上げます。本日ご臨席いただきました皆様のご多幸と、東北大学の更なる発展をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

平成30年9月25日  
卒業生・修了生代表 医学系研究科  
坂本 美佳